

岐阜県図書館協会

会報

No. 35

平成19年3月

事務局

〒500-8368

岐阜市宇佐4-2-1

岐阜県図書館内

電話(058)275-5111

公民館の果たす役割

岐阜県公民館連合会会長 加藤 隆一

公民館は、終戦と共に国民の文化的教養を高める新しい文化施設として誕生した。以後、60年の歳月が流れ、その間幾度となく改革がされ今日に至っている。

設立当時の公民館の目的として、「これからの日本にもっとも大切なことは、全ての国民が豊かな文化的教養を身につけ、他人に頼らず、自主的にものを考え、平和的協力的に行動する習性を養うこと。」とされている。

公民館は、町村民が相集まって教え合い、互いの教養を高める。町村民の親睦交友を深める。町村民の民主主義的訓練の実習所であり、中央文化と地方文化の接触交流の場であり、全町村民のものである。そして、郷土振興の基礎を作る機関であるという方針が立てられていた。しかし、最近では、公民館は、高齢者の趣味と教養が

中心になっているのではないか。という人が増えてきている。地域住民のために、自主的な事業を起こし実践されている公民館も多々あることを認めながらも、こんな陰口をたたく人がいる。要するに公民館は、PR不足である。もっと宣伝してほしいものだ。「公民館は、こんなことをしていますよ。」と大声を出してほしいものです。特に、青少年育成として、文部科学省と厚生労働省とが連携して平成19年度より発足する「放課後の子どもプラン」に公民館は手を挙げて、地域の子どもの育成に努めてほしい。その中で、幼児から高齢者まで集まる場として公民館が存続していけば、地域教育力のアップに繋がると思う。

子どもを仲介にして人が集まれば、そこに何かが起きる。

人が集まれば、そこに活動が始まる。そこに本があれば読書が始まる。一人読み、読み聞かせが始まる。そして、それが広がり楽しい活動に繋がる。とにかく人を集めることから何かが始まる。そのことを大切にしたいものだ。



岐阜県公共図書館協議会活動報告

県内公共図書館の動き

2006年3月の新・大垣市(1市2町)の誕生をもって市町村合併は一段落し、県内の市町村数は21市19町2村に、図書館設置市町は21市12町となった。

県内では、北方町立図書館をはじめ、試行を含めて4館が新たに祝日開館を実施した。また、岐阜市立図書館では貸出冊数を増やしたり、羽島市立図書館などでは利用者登録の要件を緩和して、サービスの拡大を図った。新たにインターネットで蔵書検索ができるようになった図書館には、養老町図書館、揖斐川町立図書館がある。また、合併後のシステム統合を海津市図書館が実施し、市内3館の蔵書を一括検索できるようになった。各務原市立中央図書館は、中部学院大学附属図書館と相互協力に関する覚書に調印した。

指定管理者制度の導入

4月から高山市図書館が(株)図書館流通センター、多治見市図書館(笠原分館を除く)が(財)多治見市文化振興事業団による管理・運営となった。

新図書館設立への動き

恵那市では(財)伊藤青少年育成奨学会から図書館と蔵書の寄付を受け、本年秋の恵那市中央図書館(仮称)開館に向け、準備が進められている。また、飛騨市では図書館等複合施設設置に向けてプロポーザル・コンペを行い設計者を1社に絞り込んだ。2009年3月の開館を予定している。

子どもの読書と子育て支援

ブックスタート事業は、恵那市図書館や高山市図書館で開始された。「子どもの読書活動推進計画」は、美濃加茂市、可児市、関市で新たに策定された。

県図書館では5月から毎週金曜日に「託児サービス」を始め、8月には「子育て支援図書コーナー」を設置し、利用者から好評を得ている。また、夏休みには子ども図書館探検などを実施したり、岐阜大学との共催で子ども向けの講座を開催したりすることで図書館利用の推進を図った。

(岐阜県公共図書館協議会事務局)

岐阜県大学図書館協議会活動報告

平成18年度の主な活動は以下のとおりです。

運営委員会(6月27日(火) 岐阜大学)
総会及び研修会(7月21日(金) 岐阜薬科大学)
講習会「図書館活動と著作権」後援・共催参加(8月22日(火) 岐阜県図書館)

今年度の総会及び研修会(13館、18名参加)は、岐阜薬科大学が会場館となり附属薬草園内会議室(岐阜市椿洞)において開催した。永瀬薬科大学附属図書館長の議長選出で始まった総会は、会務報告、岐阜県図書館協会理事会での審議内容等の報告の後、決算・予算の協議、会場館及び岐阜県図書館協会相互協力部会委員のローテーションの審議を行ない、公共図書館との連携協力についての協議事項では、資料相互利用サービスの東海各県での現況説明があり、規模・専門領域・地域性等大学間での温度差はあるものの、取組みに前向きな意見が多くあり、今後公共図書館の仕組み、経費等を含めた問題点を吟味し検討することを確認した。

日頃県内の大学図書館職員が顔を合わせる機会が少ないことから、情報交換会の場を設け、各大学の現状や課題等について意見交換を行った。短い時間ではあったが、共通の課題を持つことを再確認し、その解決に向けて白熱した討論の場となった。

研修会は、田中薬科大学薬草園園長による「尾張本草学と伊吹山」の題目で講演会を行った。伊吹山の薬草と地元の関わりについてジョークを交えた丁寧な説明が印象的だった。

終了後、薬科大学の厚意により薬草園内を散策した。約700種の薬草の中にはこんな植物まで!もあり、新たな知識を蘊蓄に追加できたのは私だけではなかったかも。

(岐阜県大学図書館協議会事務局)

岐阜県学校図書館協議会の活動と事業

岐阜県学校図書館協議会では、学校図書館の充実発展を図るための研究会や研修会と、児童生徒の読書の振興を図るための各種コンクール事業を行っている。以下は、今年度の活動の様子。

(1)研究会・研修会

研究会および理事会・代表者会（5月・2月）

主な内容：羽島市の絵本作家高須悦子さんの講話、各務原市立鷺沼第二小学校中島優子教諭の実践発表。それぞれの参加者約70名。

職員研修会（夏季ゼミナール・下呂市・8月）

内容：岐阜市立本荘小学校安藤恭子校長の講話「読書感想画の描かせ方」参加者約80名。

全国学校図書館研究大会参加（郡山市・8月）

テーマ：「未来を拓き豊かな学びの中核となる学校図書館」岐阜県からは2名の教諭が分科会において日頃の研究実践の成果を発表。

(2)各種コンクール事業

図書館だよりコンクール...生徒が企画編集した図書館だよりや館報。(対象:高等学校のみ)参加校22校
読書感想文コンクール...本を読んだ感想を文章で表現する。(対象:小学校、中学校、高等学校、在学勤労青少年)応募総数79,247点。

読書感想画コンクール...本を読んで得た感動を絵画で表現する。(対象:小学校、中学校、高等学校)応募総数4,155点。

図書館利用作文コンクール...図書館を活用して課題解決した過程を作文で表す。(対象:小学校、中学校)応募総数813点。

読書ゆうびんコンテスト...読んだ本の感想を絵と文ではがきを書いて、相手に紹介する。(対象:小学校、中学校、高等学校、一般)応募総数15,816点。県内より多数参加。すばらしい作品が集まった。

「図書館だより」や「読書感想画」の優秀作品は、岐阜県図書館の楽書交流サロンに展示し、多くの方に見ていただいた。「読書ゆうびん」の優秀作品は、いくつかの郵便局で巡回展示される。「読書感想文」や「図書館利用作文」の優秀作品は、それぞれ文集にして発行している。今後もこうした事業を通して、読書活動がますます豊かに発展することを願っている。

(岐阜県学校図書館協議会事務局)

スポーツ専門の図書館

岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター情報ライブラリー

成り立ち

当センターは、「スポーツ王国・ぎふ」づくりを推進する岐阜県の選手強化の拠点施設として平成5年に誕生しました。科学的トレーニングを推進し、岐阜から全国や世界に羽ばたく選手を輩出することと、強くなりたいと願う選手や指導者に対して貢献することを目標としています。

この目標達成を情報面から支えるため、図書・ビデオ・論文・新聞記事などさまざまなスポーツ情報を収集し、情報ライブラリー（図書室と情報スペース）を設置して提供してきました。図書・ビデオに関しては競技スポーツに限定せず、学校スポーツ・レクリエーションスポーツ・健康スポーツと広範囲に収集し、スポーツ愛好家の方にも利用していただいております。

現在まで

平成9年4月に岐阜メモリアルセンターの図書を統合し、館外貸出業務を始めました。10月には「岐阜スポーツ総合情報システム」(ホームページ)でウェブでの検索や貸し出し手続きができるようになりました。平成14年12月には高橋尚子選手の寄贈により「高橋尚子ライブラリー」を開設し、マラソンやオリンピックに関するものを充実しました。現在の蔵書数は4200冊、ビデオ・DVD2000本、雑誌45種類となっています。スポーツ専門書だけを扱っている図書館は全国的にも珍しく、インターネットで利用できることから北海道など遠方からの利用者もあります。



情報ライブラリーの今後

現在、館内ではスポーツ写真やオリンピック・アジア大会に選手・トレーナーとして参加した当センター職員のウェアなどを展示しています。今後は、来館者のみなさまにとって居心地の良い環境を提供できるよう工夫を凝らすとともに、スポーツをもっと楽しくもっと身近に感じていただけるよう、掲示内容の工夫や企画展示（夏に岐阜国体に向けたものを計画中）を行い、総合的な情報ライブラリーとして展開していきたいと思っております。（業務情報課 北岡 順子）



相互協力部会の活動について

今年度は3回の会議を開催し、「岐阜県の図書館」(隔年発行)の作成と来年度の活動計画について検討を行った。今回は委員の半数が交代となったことや事務局体制の変更があったため、相互理解を深めるために各館や各館種の現状についての情報交換を中心に行った。

その中で、当部会の活動を有意義なものとするためには、目に見える成果物をもたらす活動に取り組むことが必要であるとの課題が浮かび上がってきた。

第3回の会議では、来年度の活動計画として、各自がアイデアを持ち寄り、何かの成果物が作成できるような活動について検討した。

相互協力を充実させるためには十分な相互理解が必要であるが、各館種ごとに状況が異なるなかで、いかに有意義な相互協力の体制をつくりあげるかは大きな課題となっている。

当部会では、各館種の委員が共同して活動を行うことで相互理解を深めるとともに、さらに各館種ごとにそれぞれの強みを上手に生かすことで、より相互協力を充実させることができる活動に取り組むことができると考えている。

(岐阜県図書館 坪井 敏二)

岐阜県図書館協会

平成18年度 主な事業報告

1. 図書館活動研究大会

平成18年12月1日、岐阜県図書館において、「今、読書を問う」と題し、図書館活動研究大会を開催しました。

読書環境の整備が進められている中、魅力ある図書との出会いの場である各種図書館は大きな役割を果たしています。

講演会では、子どもたちに良い出会いを提供するためにも、選書に当たる司書の役割は大きく、

「図書館のサービスは蔵書の質で決まる」ということでした。

講演

「子どもと本の架け橋」

荒井 督子

(財団法人東京子ども図書館常務理事)

事例発表

「読書推進への取り組みと出版界の概況」

谷川 直人

(株式会社トーハン名古屋支店長)

(参加者 78名)

2. 図書館実務講習会

(1) 学校図書館職員

・小中学校部会

平成18年8月18日 下呂市星雲会館

「読書感想画の取り組み方」

講師 安藤恭子(岐阜市立本庄小学校長)

(参加者 85名)

(2) 図書館職員研修(初級)

平成18年7月4日 岐阜県図書館

講師: 才津原哲弘

(東近江市立能登川図書館長)

(参加者 93名)

3. 資料発行

「岐阜県の図書館 No.32」平成19年3月

「会報」(35号)

平成19年3月

4. 会議

理事会

18年6月22日

幹事会

第1回

18年6月15日

第2回

19年3月20日

相互協力部会

第1回

18年12月6日

第2回

19年1月30日

第3回

19年3月16日

以上を開催しました。